

2025-2026

SCHOOL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES,
KYUSHU UNIVERSITY

INTERNATIONAL PROGRAM REPORT

国際薬学特別研修A

期間：2026年2月24日出発～3月31日帰国

渡航先：台湾・台北市

訪問大学：国立陽明交通大学薬学部
：台北医学大学薬学部

ABOUT THE PROGRAM

九州大学薬学部では、2018年度から創薬科学科に国際コースを設置し、国際舞台で活躍する広い視野を持った次世代の研究者の養成を行っています。2025年度からは、国際コース生以外にも挑戦の機会を広げ、更なる人材育成につなげています。

TAIWAN SCHEDULE

- ・ 6月 国際コース申請
- ・ 10月 履修生の決定
オリエンテーション
- ・ 12月 危機管理セミナー受講
事前研修（対面）
- ・ 1月 学生間交流（オンライン）
- ・ 2月 出発
- ・ 3月 最終発表会（現地）
- ・ 帰国

STUDENT VOICES



英語での専門的なコミュニケーションや研究活動に苦労しながらも、論文調査や積極的な質問を重ね、主体的に行動する力を身につけた。

現地学生との交流を通して、台湾の薬学教育や文化への理解を深め、国際的な視野の重要性を実感した。

膵臓がんに対するサンプルの影響を研究し、細胞培養、薬剤投与、サンプル回収を経て、ウェスタンブロット・フローサイトメトリー・qPCRによる解析を行った。

国際薬学特別研修B

期間：2026年2月24日出発～3月31日帰国

渡航先：タイ・バンコク市

訪問大学：チュラロンコン大学薬学部
：マヒドン大学薬学部



THAILAND SCHEDULE

- ・ 9月 一般公募の申請
- ・ 10月 履修生の決定
オリエンテーション
- ・ 12月 危機管理セミナー受講
事前研修（対面）
- ・ 1月 学生間交流（オンライン）
- ・ 2月 出発
- ・ 3月 最終発表会（現地）
- ・ 帰国



STUDENT VOICES

食文化について（お気に入りランキング）

1位：カオマンガイ

ガーリックライスと蒸し鶏の組み合わせが印象的であった。

2位：プーパッポンカレー

濃厚な卵の甘みとスパイシーなカレー風味が特徴的であった。

3位：パッタイ

甘辛い味付けと米粉麺の食感が印象に残った。

タイ料理は全体的に辛味の強いものが多かったが、その分マンゴーやマンゴスチンなどのフルーツの美味しさも際立っており、タイならではの食文化を満喫することができた。

現地での生活を通じて、タイ社会における貧富の差や社会構造について考える機会を得た。

また、5週間の滞在中に様々な場所を訪れ、宗教や食文化、街の構造など、日本とは異なる文化や価値観に触れることができた。

生薬学分野の研究に参加し、タイの伝統薬草から抗炎症成分を抽出・定量する実験を経験した。これまで触れたことのない研究テーマや実験手法を学ぶことができ、大変貴重な経験となった。

研究室にはタイのみならず、スリランカやインドなど多様な国籍の学生が所属しており、日々の交流を通じて異文化理解を深めることができた。また、現地学生や交換留学生との交流を通じて、実践的な英語力の向上を実感し、自信につながった。

